

問4-2 その病院までの移動距離、所要時間をご記入ください。

移動距離()km 所要時間()分

問4-3 その際の搬送手段を下記からお選びください。

1. 救急車 2. 救急車以外の自動車 3. 船舶 4. ヘリコプターまたは航空機
5. その他 具体的に()

問5 遠隔医療についてお答えください。

1. 遠隔医療を利用している 2. 必要だと思うが、利用したことはない 3. 遠隔医療は特に必要ない
4. その他 ()

問6 問5で1. 利用していると答えられた方にお聞きします。利用している内容をお答えください(複数回答可)。

1. エックス線写真、CT画像等の静止画像による診断 2. 血管造影等の動画による診断
3. 病理組織などの診断 4. テレビ電話による診断、治療 5. 電子メールを利用した症例検討・相談
6. 在宅患者のモニター 7. テレビ会議等による学会、研究会、講演会への参加
8. 他院の電子カルテの閲覧、他院への紹介状 9. その他()

問7 遠隔医療を推進する上での課題についてお答えください(複数回答可)。

1. 導入時のハード、ソフト等の設備費が高価である 2. 機器の更新等の費用が高価である
3. 通信費等の維持費が高い 4. 医療機器とパソコンを接続するインターフェースが整っていない
5. 操作が煩雑である、面倒くさい 6. 通信等の処理速度が遅い 7. 現場のニーズに合っていない
8. 相談を受ける側の医師が確保されていない 9. その他()

【へき地医療拠点病院】

問8 貴診療所を支援(非常勤医師や代診医師の派遣等)しているへき地医療拠点病院はありますか。

1. ある (病院名:)
2. 拠点病院以外の支援病院がある (病院名:)
3. ない

問9 問8で「1. ある」と回答された方にお聞きします。へき地医療拠点病院が、下記のa～lのうち果たしている機能について記号に○をつけ、さらにその働きの効果についてお書きください。

- a. 非常勤医師の定期派遣 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
b. 非常勤医師の随時派遣 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
c. 代診医の派遣 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
d. 長期の代診(産休・療養) ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
e. コメディカルの派遣 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
f. へき地巡回診療 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
g. 医療職の研修の受入れ ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
h. 画像伝送等の遠隔医療 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
i. 定期的な症例検討会 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
j. 紹介患者の受入れ調整 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
k. 総合的な臨床医の養成 ①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし
l. その他 ()
①十分である ②まずまず ③不十分 ④効果なし

問10 貴診療所にとってへき地医療拠点病院が持つべき機能を下記から3つまでお選びください。

1. 非常勤医師の定期派遣
2. 非常勤医師の随時派遣
3. 代診医の派遣
4. 長期の代診(産休・療養)
5. コメディカルの派遣
6. へき地巡回診療
7. 医療職の研修の受入れ
8. 画像伝送等の遠隔医療
9. 定期的な症例検討会
10. 紹介患者の受入れ調整
11. 総合的な臨床医の養成
12. その他 ()

へき地医療拠点病院が持つべき機能 3つまで () () ()

【へき地医療支援機構】

問11 へき地医療支援機構(以下、「機構」といいます。)が設置されましたが、機構が貴都道府県のどこに設置されているかご存知ですか。

1. はい
2. いいえ

問12 機構の機能として代診医の派遣や研修会の開催などがありますが、以下のうち、利用や参加をしたものに○をつけてください(複数回答可)。

1. 代診医師の派遣を受けたことがある(現在、受けているものも含みます)。
2. 医師以外の医療職の派遣(臨時を含む)を受けたことがある(現在、受けているものも含みます)。
3. へき地に勤務する医療職のための研修会に参加したことがある。
4. へき地医療に関する協議会に出席・参加したことがある。
5. へき地に赴任する医師として登録している(そのため現在勤務している)。
6. へき地に赴任することを目的とした研修を受けたことがある。
7. その他 具体的に ()
8. 特に利用や参加をしたことはない。

問13 貴診療所の運営にとって機構の機能は満足のものですか。

1. はい
2. いいえ

【後方病院への搬送】

問 14 診療所における下記の病態の診療について、後方病院への搬送が必要とされる頻度、搬送の状況などについてお聞きします。

	搬送が必要とされる頻度 ①月に1回前後以上 ②数ヶ月に1回以上 ③年に1回以上 ④数年に1回程度 ⑤今まで経験したことがない(前任者も含めて)。	搬送先医療機関 ①ほぼ固定している。 ②数か所の医療機関が対応している。 ③決まった医療機関はないが、対応できている。 ④搬送先決定に苦慮することが多い。	搬送手段 ①ほぼ固定しており、円滑に搬送できている。 ②ほぼ固定しているが、必ずしも円滑ではない。 ③その都度調整するが、円滑である。 ④その都度調整する必要があり、必ずしも円滑ではない。	搬送不能の頻度 ①ほとんどない。 ②数年に1回程度 ③年に1回程度 ④年に数回以上、搬送ができないことがある。
1) 脳卒中などの脳血管障害	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
2) 急性心筋梗塞などの心疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
3) 緊急手術が必要な外傷患者	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
4) 専門治療が必要な小児疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
5) 専門治療が必要な産科疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
6) 専門治療が必要な婦人科疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
7) 原因不明の呼吸困難等診断がつかない病態	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
8) 診療所では対応できない高齢者の肺炎などの感染症	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
9) CPAOA(来院時心肺停止)蘇生後	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④

問 15 上記の場合、搬送不能の理由として、もっとも重要なもの(頻度が多い、あるいは善後策が立てにくい)1つに○をつけてください。

1. 搬送先医療機関が選定できない。
2. 搬送手段が選定できない。
3. 搬送先および搬送手段が選定できない。
4. その他 具体的に()

	1) 現在の対応	2) 理想的な対応
	①診療所で対応可能である ②診療圏内で対応可能である ③診療圏内で対応は不可能である	①診療所で対応すべきである ②診療圏内で対応すべきである ③診療圏内で対応する必要はない。
16. 乳がん検診 (マンモグラフィ)	① ② ③	① ② ③
17. 術後の外来経過観察	① ② ③	① ② ③
《心疾患》		
18. 虚血性心疾患の心電図による 診断	① ② ③	① ② ③
19. 心筋梗塞治療後(退院後)の 外来通院と薬物治療	① ② ③	① ② ③
20. 不整脈の診断 (ホルター心電図を含む)	① ② ③	① ② ③
《脳血管疾患》		
21. 脳血管障害の頭部CTスキャン による診断	① ② ③	① ② ③
22. 脳血管障害による片麻痺 (半身不随)に対するリハビリ	① ② ③	① ② ③
23. リハビリ後、後遺症を残した 状態での在宅医療と介護支援	① ② ③	① ② ③
《外科疾患》		
24. 急性虫垂炎の診断	① ② ③	① ② ③
25. 急性胆のう炎の診断	① ② ③	① ② ③
26. 急性膵炎の診断	① ② ③	① ② ③
《整形外科疾患》		
27. 腰痛症・肩関節周囲炎に 対するトリガーポイント注射	① ② ③	① ② ③
28. 膝関節腔への薬剤注入	① ② ③	① ② ③
29. 骨盤牽引・脊椎牽引	① ② ③	① ② ③
《外傷。救急疾患》		
30. 四肢外傷の初期治療 (骨折を除く)	① ② ③	① ② ③
31. 骨折患者の初期治療	① ② ③	① ② ③
32. 外傷性腹腔内出血の初期 治療(気道管理・輸液・診断等)	① ② ③	① ② ③
33. 脊髄損傷の初期治療	① ② ③	① ② ③
34. 来院時心肺停止症例(CPAOA) に対する心肺蘇生	① ② ③	① ② ③
35. カウンターショック	① ② ③	① ② ③
36. 一般住民に対するBLS指導	① ② ③	① ② ③
《小児の疾患》		
37. 小児(乳児以上)の診察	① ② ③	① ② ③

	1) 現在の対応	2) 理想的な対応
	①診療所に対応可能である ②診療圏内に対応可能である ③診療圏内に対応は不可能である	①診療所に対応すべきである ②診療圏内に対応すべきである ③診療圏内に対応する必要はない。
38. 新生児・乳児の診察	① ② ③	① ② ③
39. 小児の採血・輸液	① ② ③	① ② ③
40. 小児の肺炎の治療	① ② ③	① ② ③
41. 小児の喘息の治療	① ② ③	① ② ③
《産科》		
42. 妊婦健診	① ② ③	① ② ③
43. 正常分娩の介助	① ② ③	① ② ③
44. 帝王切開術	① ② ③	① ② ③
《眼科疾患》		
45. 結膜炎の治療	① ② ③	① ② ③
46. 白内障の薬物治療	① ② ③	① ② ③
47. 眼内異物の治療	① ② ③	① ② ③
48. 視力検査	① ② ③	① ② ③
49. 眼底カメラ	① ② ③	① ② ③
50. 眼圧測定	① ② ③	① ② ③
《耳鼻科疾患》		
51. 鼻出血	① ② ③	① ② ③
52. 耳垢摘出	① ② ③	① ② ③
53. 喉頭異物	① ② ③	① ② ③
54. 鼻炎の治療	① ② ③	① ② ③
55. 慢性副鼻腔炎の薬物治療	① ② ③	① ② ③
56. 聴力検査	① ② ③	① ② ③
《皮膚科疾患》		
57. 湿疹の診断と治療	① ② ③	① ② ③
58. 褥瘡の保存的治療	① ② ③	① ② ③
59. 熱傷の治療	① ② ③	① ② ③
《各種検査》		
60. 院内血液検査	① ② ③	① ② ③
61. 腹部超音波検査	① ② ③	① ② ③
62. 心臓超音波検査	① ② ③	① ② ③
63. エックス線テレビ	① ② ③	① ② ③
64. MRI	① ② ③	① ② ③
65. 人工透析	① ② ③	① ② ③

問 18-1 貴診療所は、初期救急医療にどの程度対応していますか。

1. 十分対応できている
2. 対応できている
3. あまり対応できていない
4. まったく対応できていない

問 18-2 前問で、3. または4. を選ばれた方にお聞きします。十分に対応できない理由をお答えください。

(例：エックス線撮影が行えない、スタッフの能力が不十分、小児の診察に自信がない等)

問 19-1 貴診療所は、プライマリケア(ありふれた健康問題に対応する医療。初期救急医療を除く)について、地域のニーズに応えていますか。

1. 十分対応できている
2. 対応できている
3. あまり対応できていない
4. まったく対応できていない

問 19-2 前問で、3. または4. を選ばれた方にお聞きします。十分に対応できない理由をお答えください。

(例：皮膚疾患を診療することができない、小児の診察に自信がない等)

【臨床研修・学生実習】

問 20 平成 16 年度から医師の臨床研修が必修化され、「地域保健・医療」として、へき地・離島における研修が導入されましたが、貴診療所ではこれまで卒後 2 年未満の初期研修医を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ()名/年
のべ研修期間(概数) ()週間/年
2. いいえ

問 21 貴診療所ではこれまで卒後 3 年～5 年目の後期研修医を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ()名/年
のべ研修期間(概数) ()週間/年
2. いいえ

問 22 貴診療所ではこれまで医学部学生(学年は問いません)の実習を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ()名/年
のべ実習期間(概数) ()週間/年
2. いいえ

問 23-1 貴診療所では、医師・医学部学生以外の医療専門職の研修や医療系教育機関の学生の実習を受け入れたことがありますか(看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、OT、PT等)。

1. はい
2. いいえ

問 23-2 受け入れた経験のある方にお聞きします。受入れた職種、学生についてお答えください(複数回答可)。

医療専門職

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 薬剤師 5. 診療放射線技師
6. 臨床検査技師 7. OT・PT 8. その他 具体的に() ()

医療系学生

9. 看護系 10. 薬学部系 11. 医療技術系(放射線技師・検査技師・OT・PT等)
12. その他 具体的に() () ()

以下は、研修医や学生の受入れの経験に関わらずお答えください。

問 24-1 研修医の研修を受け入れることは、診療所にメリットがあると思われますか。

1. はい 次のうち、具体的なメリットに○をおつけください(複数回答可)。
①診療所勤務医師の研鑽 ②診療所スタッフの研鑽 ③診療所業務の活性化
④へき地医療に対する理解の促進 ⑤へき地(離島を含む)に勤務する医師の増加
⑥その他 具体的に ()
2. いいえ

問 24-2 今後、初期研修医を受け入れたいと思われますか。また、その理由もお答えください。

1. はい 2. いいえ
その理由

問 25 医学部学生の研修を受け入れることは、診療所にメリットがあると思われますか。

1. はい 具体的なメリットに○をおつけください(複数回答可)。
①診療所勤務医師の研鑽 ②診療所スタッフの研鑽 ③診療所業務の活性化
④へき地医療に対する理解の促進 ⑤へき地(離島を含む)に勤務する医師の増加
⑥その他 具体的に ()
2. いいえ

【研修・研究】

問 26 研修・研究についておたずねします。計画的に研修・研究日を設け実施していますか。

1. 実施している 2. 実施していない

問 27 学会・研修会等による短期の出張の場合、どのように対処されていますか。

1. 休診にする 2. 代診医を要請し、確保している 3. 代診医を要請するが確保できない
4. 診療日の変更など臨機応変に対処している 5. 診療所の他の医師が対応する
6. 基本的に出張には行かないようにしている 7. その他 ()

【行政との関係】

問 28 診療所の活動について、行政の支援・協力の体制はいかがですか。

1. 十分な支援・協力がある 2. 一応の支援・協力がある 3. あまり支援・協力が無い 4. わからない

問 29 保健福祉行政に診療所医師としての意見が反映されていますか。

1. 十分反映されている
2. 反映されている
3. あまり反映されない
4. 全く反映されない
5. わからない

【勤務を続けるための支援】

問 30 あなたがへき地の診療所で勤務を続けるために必要なことは何ですか。下記から3つまでお選びください。

1. 勤務環境(勤務時間、通勤状況)の向上
2. 生活環境(住宅環境等)の向上
3. 子どもの教育の充実
4. 診療支援体制の強化(代診医等の派遣、患者搬送システムの整備等)
5. 研修・生涯教育の充実
6. 勤務環境の充実(勤務時間、休日、託児施設等)
7. 報酬の充実
8. 地元行政の理解と協力
9. 地域住民の理解と協力
10. 複数医師体制の確保
11. 安定した身分
12. 最新医療機器の整備
13. へき地医療拠点病院群を含めたネットワークの中での人事ローテーション
14. 都道府県やへき地医療支援機構の理解と協力
15. 専門医取得のための研修ができること
16. 学位取得に対する支援
17. 地域で研究を行うための支援(研究費、研究指導等)
18. その他 ()

へき地で勤務を続けるために必要なこと 3つまで () () ()

問 31 今後、へき地医療を向上させるために必要なことは何ですか。下記から3つまでお選びください。

1. 後方支援病院の機能強化
2. へき地医療支援機構の活動の強化
3. 国・都道府県の指導力
4. 広域化による資源の有効利用
5. 休日・夜間の診療体制の整備(診療所勤務医師の負担軽減)
6. 受診行動などに関する住民への啓蒙
7. 住民の保健医療行政への関与
8. 地域医療に関わる人材の育成・確保と教育の改善
9. 総合的な診療の普及
10. 都道府県の自由な裁量によるへき地医療対策
11. 保健福祉医療が一体となったまちづくり
12. その他 ()

へき地医療を向上させるために必要なこと 3つまで () () ()

【現在のへき地勤務について】

問 32 あなたがへき地の診療所に勤務している理由についてご記入ください。下記から3つまでお選びください。

1. やりがいがあるから
2. 働きやすいから(住民や職員がよい)
3. 自然環境がよいから
4. 自治医科大学やへき地勤務のための奨学金制度などの義務年限内だから
5. 大学医局からの派遣
6. 近隣に両親や親しい人が住んでいるから
7. 出身地(出身地に近い)だから(両親の跡を継いで)
8. 報酬が良いから
9. 後任がないから
10. 近隣の病院からの派遣
11. その他 ()

へき地に勤務している理由 3つまで () () ()

問 33-1 現在、勤務されている施設での勤務についてお聞かせください。

1. できるだけ長く勤務したい
2. 任期が終了するまで
3. 後任が見つかるまで
4. 早く退職したい
5. 退任後、しばらくしたら(子どもの教育終了後など)再び赴任したい
6. その他 ()

問 33-2 前問で、3. 後任が見つかるまで または 4. 早く退職したい の場合、理由をお聞かせください。

問 34 現在、勤務されている施設での勤務期間(赴任から退任まで)の予定はどのくらいですか。

1. 1年以内
2. 1～3年以内
3. 3～10年以内
4. 10年以上
5. その他 ()

【研修歴】

問 35 あなたが受けられた初期臨床研修(卒後2年以内)はどのようなものでしたか。お答えください。

1. 総合診療方式(内科系・外科系等に問わず、総合診療を指向したさまざまな内容について研修するもの)
2. ストレート研修方式(内科系・外科系などの診療科を中心に研修するもの)
3. インターン制度
4. その他 ()

問 36 あなたが初期臨床研修終了後から卒後5年目までに、研修を受けた診療科についてお答えください(複数回答可)。

1. 内科
2. 外科
3. 整形外科
4. 小児科
5. 産科
6. 婦人科
7. 脳神経外科
8. 眼科
9. 耳鼻いんこう科
10. 皮膚科
11. 泌尿器科
12. 麻酔科
13. 精神科
14. 形成外科
15. 内視鏡科
16. その他 具体的に () () ()
17. 特に研修は受けていない

問 37 あなたが卒後6年目以降に、研修を受けた診療科等についてお答えください(複数回答可)。

通常の勤務中の研修(on the job training : 例 週に1日研修施設等で行う研修)や、一定期間(数か月等)研修施設で行う研修(off the job training)などを含みます。

1. 内科
2. 外科
3. 整形外科
4. 小児科
5. 産科
6. 婦人科
7. 脳神経外科
8. 眼科
9. 耳鼻いんこう科
10. 皮膚科
11. 泌尿器科
12. 麻酔科
13. 精神科
14. 形成外科
15. 内視鏡科
16. その他 具体的に () () ()
17. 特に研修は受けていない

問 38-1 あなたが受けられた初期臨床研修(卒後2年以内)は、現在行っている診療に役立っていますか。

1. 十分に役立っている
2. 役だっている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない

問 38-2 あなたが受けられた後期臨床研修(卒後3～5年目)は、現在行っている診療に役立っていますか。

1. 十分に役立っている
2. 役だっている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない
6. 研修を受けていない

問 38-3 あなたが卒後6年目以降に受けられた研修は、現在行っている診療に役立っていますか。

1. 十分に役立っている
2. 役だっている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない
6. 研修を受けていない

平成 21 年 7 月 1 日

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇病院長
〇〇 〇〇 様

厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を
構築する方策および評価指標に関する研究」班
[研究代表者 鈴木正之(自治医科大学救急医学教授)]

平成 21 年度厚生労働科学研究への協力について (お願い)

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちは平成 17 年度から 3 年間にわたって「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」を行い、へき地・離島に赴任する医師を増加させることを目的とした『へき地・離島医療マニュアル』、「都道府県へき地・離島保健医療計画策定に向けての事例集(平成 18 年度版)」、「へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成 19 年度版)」を作成し公表いたしました。

この 3 つの著作物につきましては、へき地離島救急医療研究会のホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/emraii/index.shtml>)にてご覧いただけます。

平成 20 年度からは標記の研究事業において、へき地・離島の保健医療を向上させる具体的な方策を示すとともに評価の方法を提示することを目的としております。

このたび、へき地・離島に赴任する医師を増加させる方策を明らかにするために、現在大学附属病院や臨床研修病院に勤務する研修医(初期：卒後 1～2 年、後期：卒後 3～5 年)および指導医クラスの医師等を対象として、臨床研修歴、現在の診療科、総合診療に対する意識、専門医取得に対する考え方、新臨床研修制度に対する評価、勤務に関する価値観、へき地勤務に対する考え方等につきまして、調査を行うことといたしました。

つきましては、貴病院に所属する臨床に携わる全ての医師について、別添資料のようにアンケートを実施いたしたく、調査用紙の配布および回収にご協力いただきますようお願い申し上げます。具体的方法については、次葉の説明をご覧ください。

また、へき地・離島に赴任する医師の臨床研修はどうあるべきかを明らかにするために、現在行なわれている臨床研修に関する現地調査も計画しております。

貴病院にお伺いすることもあると思いますが、その時はよろしくご協力のほどお願いいたします。

なお、別紙のとりまとめ票(各所属ごと)にご記入の上、調査用紙とともに、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

調査内容照会先 自治医科大学救急医学教室(担当：今道、鈴木)

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

電話 :0285-58-7395 F A X :0285-44-0919

とりまとめ票(各所属単位)

A. 所属名： _____

B. ご担当者についてご記入ください。(調査用紙についてお問合せをする場合がございます)

お名前 _____

内線番号 _____

E-mail address _____

連絡先電話番号 _____

C. 貴所属における配布数および回答数

☆調査用紙を配布した医師の数は回答率の算出に必要ですので必ずご記入ください。

	調査用紙の配布数 (初期研修医、後期研修 医に関しては、在籍する 医師の数でも結構です)	回答した医師の数
初期研修医 (経験2年目以下)		
指導医クラスの医師 (経験7年目以上)		
指導医クラス以外の医師 (経験3～6年目)		

調査内容照会先：厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を
構築する方策および評価指標に関する研究」班
[研究代表者 鈴木正之(自治医科大学救急医学教授)]

担当：自治医科大学救急医学教室(担当：今道、鈴木)
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
電話：0285-58-7395 F A X：0285-44-0919

医師の総合診療およびへき地勤務に対する指向に関するアンケート調査の概要

1. 調査の目的

平成18年度から始まった第10次へき地保健医療対策において、へき地・離島に赴任する医師を増加させることを目的としたへき地に対応すべき診療内容をまとめた『へき地・離島医療マニュアル』や、中高年・リタイアした医師の再研修制度が盛り込まれました。

そこで、本研究班では、こうしたへき地・離島に赴任する医師の増加策が有効に機能するために必要な対策について明らかにすることを目的として、現在へき地・離島に勤務していない医師(初期研修医、後期研修医、中堅医師、ベテラン医師)を対象に総合診療およびへき地勤務に対する考え方について調査を行うことといたしました。この調査では、大学附属病院および臨床研修病院の勤務医師に対して、研修歴、現在の診療科、総合診療に対する意識、専門医取得に対する考え方、新臨床研修制度に対する評価、勤務に関する価値観、へき地勤務に対する考え方等について調査を行い、へき地・離島に赴任する医師を増加させるにはどのような施策が必要かを明らかにすることにしています。

2. 調査の対象

以下の大学附属病院および臨床研修病院に勤務する医師(初期研修医、後期研修医、指導医師)。

札幌医科大学附属病院、鹿児島大学附属病院、国立長崎医療センター、島根県立中央病院、自治医科大学附属病院

なお、本調査は、医師としての経験(勤務)年数により、初期研修医(1～2年目)、後期研修医(3～5年目)、中堅医師(6～15年目)、ベテラン医師(経験16年目以上)を対象として行います。

3. 調査票の取り扱い

調査内容の分析、結果の取りまとめ等は全て匿名で行います。

4. 調査票の配布

各施設のご担当者の方から、それぞれの所属を通じて、対象となる医師に調査の概要(本紙)、調査用紙、調査用紙を封入する封筒の配布をお願いします。調査用紙の配布および回収に関する具体的な方法については、各施設にお送りする「調査方法の説明」をご参照ください。

5. 調査票の記入

医師の方は、調査用紙にご回答の上、添付の封筒に封入して7月31日までに、各所属のご担当者までご提出ください。各所属のご担当者の方は、封入された封筒のまま、各施設全体のご担当者までご提出ください。

なお、調査票の匿名性を確保するため、封筒は事務局にて開封したのち、破棄いたします。

6. 調査票の回収

各施設全体のご担当者は、封筒に入った状態の回答用紙を、調査用紙の配布数および回答数が記入された「とりまとめ票」とともに、8月10日までに着払いにて事務局までご返送ください。

7. 調査の実施主体及び調査結果の取りまとめ

本調査は、厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標に関する研究」班(研究代表者 鈴川正之(自治医科大学救急医学教室教授))で実施するものです。

当研究班では、調査結果を取りまとめて報告書を作成します。

8. 調査票の返送先および調査内容の照会先

「現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標に関する研究」班 事務局
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3 3 1 1 - 1 自治医科大学救急医学

電話：0285-58-7395 FAX：0285-44-0919 (担当 鈴川、今道、半澤、上野)

問6 前問で1～5と回答された方にお聞きします。次の中から初期臨床研修を受けられた施設を1つお選びください。
複数の施設で研修された方は、主として在籍していたところあるいは研修期間の長かった施設をご回答ください。

1. 臨床研修指定病院(大学附属病院以外)
2. 大学附属病院(出身大学)
3. 大学附属病院(出身大学以外)
4. 上記以外の研修病院(例:国内の米軍海軍病院など)
5. その他(具体的に:)

問7 初期臨床研修(医師免許取得後2年間)において、あなたが研修された診療科の全てに○をつけてください。研修期間は問いません。現在研修中の方については今までに研修された診療科をお書きください(複数回答可)

1. 内科全般 1-1. 循環器科 1-2. 消化器科 1-3. 呼吸器科 1-4. 内分泌代謝科 1-5. 神経内科
1-6. 腎臓内科 1-7. アレルギー・膠原病科 1-8. その他()
2. 外科全般 2-1. 一般外科 2-2. 消化器外科 2-3. 胸部外科 2-4. その他()
3. 総合診療科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科 7. 脳神経外科 8. 整形外科
9. 眼科 10. 耳鼻いんこう科 11. 皮膚科 12. 麻酔科 13. 救急科(救命救急センターを含む)
14. ICU 15. その他()

平成15年度以前に初期臨床研修を開始された方は問9にお進みください。

問8-1 平成16年度以降の新臨床研修制度で研修された方にお聞きします。新臨床研修制度で導入された「地域保健・医療」で研修された内容を下記の中から全てお選びください(複数回答可)。

1. 保健所での研修
2. 保健所以外の行政機関(例:保健センターなど)での研修
3. 離島・山間部などのへき地の診療所・病院での研修
4. 診療所(都市部の開業医等)での研修
5. 福祉施設での研修(特別養護老人ホームなど)
6. その他 具体的にお書きください()

問8-2 「地域保健・医療」の研修はあなたの臨床研修に役立ったと思いますか。

1. かなり役立ったと思う
2. まあ役立ったと思う
3. あまり役立ったと思えない
4. 全然役に立たなかった

問8-3 前問で3と4を選ばれた方にお聞きします。その理由は何ですか。下記のうち3つまでお選びください。

1. 自分の研修や今後の勤務のニーズに合わなかった
2. 学生実習などで経験した内容で、目新しくなかった
3. 研修内容が不十分であった(研修先の準備不足など)
4. ほとんど見学に終始した
5. 研修期間が短かった
6. 自分のモチベーションの不足
7. その他 具体的にお書きください()

3つまでお答えください。() () ()

そのうちもっとも重要と思われるものをお書きください。()

【後期臨床研修】

現在、初期臨床研修中の方は、問 11 へお進みください。

問 9 あなたが医師免許取得後 3～5 年の間に、後期臨床研修を受けられた(現在受けられている)施設を、次の中から 1 つお選びください。何か所かで勤務されていた場合は、一番勤務機関が長かった施設についてお答えください。

1. 臨床研修指定病院に指定されている病院(大学附属病院以外、初期臨床研修を行われたところと同一)
2. 臨床研修指定病院に指定されている病院(大学附属病院以外、初期臨床研修を行われたところとは別)
3. 大学附属病院(出身大学)
4. 大学附属病院(出身大学以外)
5. 臨床研修指定病院となっていない病院(がん、循環器などの専門病院)
6. 臨床研修指定病院となっていない病院(地域の中核的病院)
7. その他(具体的に：)
8. 後期臨床研修は受けていない(第一線医療機関で勤務をされていた場合等)

問 10 前問で 1～7 と回答された方にお聞きます。後期臨床研修(医師免許取得後 3～5 年の間に)において、研修された診療科の全てに○をつけてください。研修期間は問いません。(複数回答可)

1. 内科全般 1-1. 循環器科 1-2. 消化器科 1-3. 呼吸器科 1-4. 内分泌代謝科 1-5. 神経内科
1-6. 腎臓内科 1-7. アレルギー・膠原病科 1-8. その他()
2. 外科全般 2-1. 一般外科 2-2. 消化器外科 2-3. 胸部外科 2-4. その他()
3. 総合診療科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科 7. 脳神経外科 8. 整形外科
9. 眼科 10. 耳鼻いんこう科 11. 皮膚科 12. 麻酔科 13. 救急科(救命救急センターを含む)
14. ICU 15. その他()

【総合診療】

最近、従来の専門診療と異なり、特定の臓器や疾患にこだわらず、人々が日々の暮らしの中で直面するさまざまな健康上の心配事について、患者さんの視点に立って総合的に問題解決を図ろうとする総合診療の概念が注目されています。

問 11 総合診療に対するあなたの印象や考え方についてお聞きます。以下のなかであなたの考えにもっとも近いものを 1 つお選びください。

1. 総合診療の概念に賛同し、できれば総合診療を指向した診療をしたい
2. 総合診療の概念には賛同するが、専門医として医療に従事したい
3. 総合診療の概念には賛同するが、まず専門医として医療に従事し、適当な時期に総合診療を行いたい
4. 総合診療の概念には賛同できない
5. 総合診療の概念が理解できない
6. その他 具体的にお書きください()

【新臨床研修制度】

全ての方に、平成 16 年度から始まった総合診療を指向した新臨床研修制度についてお聞きます。

問 12 新臨床研修制度が始まり 5 年間に経過しましたが、今までの状況を見て十分に効果があったと思われますか。以下のなかであなたの考えにもっとも近いものを 1 つお選びください。

1. 目的とした総合診療のマインドをもった医師の養成に効果があった
2. それなりの効果は認められたが、総合診療の指向性が不十分であり改善が必要である
3. 効果は十分とは言えず、総合診療のマインドを持った医師を養成するにはさらなる改善が必要である
4. 専門医を目指す研修医にとっては、無意味な制度である
5. その他 具体的にお書きください()

問 13 現在(平成 21 年度)までの臨床研修制度全般に対するご意見をお聞かせください。

以下の中から近いもの 3 つまでお選びください。

1. 研修内容や研修期間などの自由度を広げるべきである
2. 研修医の身分保障がまだ不十分である
3. 上級医に対する指導に関するインセンティブ(報酬、指導を業績と認めること等)が十分でない
4. 臨床研修センターなどの事務局についての経費なども必要である
5. 総合診療の必要性は認めるが、全ての医師に課す必要はない
6. 地域医療などの研修内容が不十分である
7. 制度に対する研修医・指導医の意見が反映される体制がない
8. 地方における医師不足の原因となっており、根本的に見直すべきである
9. 研修場所については何らかの制約を設けるべきである
10. その他 具体的にお書きください()
()
()

3 つまでお答えください。() () ()

そのうちもっとも重要と思われるものをお書きください。()

問 14 現在行なわれている臨床研修制度の問題点とその解決の方法についてご意見をお聞かせください。

【専門医の取得】

現在わが国では、医学系の学会が認定している専門医が多数ありますが、専門医の取得についてお聞きします。

問 15 専門医の取得について、あなたの考え方にもっとも近いものを 1 つお選びください。

1. 専門医の取得は臨床能力の水準を示すものであり、自らの専門領域については積極的に取得したい
2. 専門医を取得しても、現在のところ特にメリットはないが、専門領域に進むからには取得したい
3. 特に理由があるわけではないが、専門領域で仕事をするからには取得するものだと考えている
4. 専門医を取得したいと考えているが、症例や手術などの経験を積むことが難しく、取得が困難である
5. 臨床を行う上で必ずしも専門医の資格は必要でないので、取得するつもりはない
6. その他 具体的にお書きください()

問 16 現在、専門医の資格をお持ちですか、

1. 持っている
2. 取得へ向けて研修中である
3. 持っていない

問 17 前問で 1 または 2 と回答された方にお聞きします。よろしければ専門医の名称をお聞かせください。

(複数回答可)

() () () ()

問 21 離島などのへき地勤務において、生活面で困ると思われる項目(3つ以内)をお選びください。

- | | |
|------------------------|------------------------------|
| 1. 交通が不便なこと | 2. 日常生活(買い物、外食、テレビ番組等)が不便なこと |
| 3. 気象条件がきびしいこと | 4. 子どもの教育が十分にできないこと |
| 5. 自由な時間が持てないこと | 6. 文化施設(映画館やスポーツ施設等)がないこと |
| 7. 家族や自分の病気が心配なこと | 8. 深夜まで開いている店がないこと |
| 9. 親のことが心配なこと | 10. 充実した余暇が過ごせないこと |
| 11. 単身赴任をせざるを得ないこと | 12. 冠婚葬祭などの交際に出席できないこと |
| 13. 物価が高いこと | 14. 文化的に違和感があること |
| 15. 保育環境が整備されていないこと | 16. 地域の生活に馴染めないこと |
| 17. 住民からよそ者扱いされること | 18. 方言が理解できないこと |
| 19. その他 具体的にお書きください() | |

3つまでお答えください。() () ()

そのうちもっとも困ると思われるものをお書きください。()

問 22 問 20、問 21 のへき地での勤務で困ると思われる項目について、解決の目途が立ったとしたら、離島などのへき地に赴任しても良いと思われますか(赴任地、赴任期間は問いません)。1つお選びください。

1. 困難な事柄が解決しなかったとしても、赴任したいと思う
2. 積極的に赴任したいと思う
3. 上記以外の課題が解決したら、赴任しても良い
4. あまり赴任したくない
5. 絶対に赴任したくない
6. わからない

問 23 前問で2または3を回答された方にお聞きます。どのような条件であれば赴任しても良いと考えられますか。以下の診療に関することの中から3つまでお選びください。

1. 臨床技術の維持・向上のための定期的な研鑽の機会
2. 冠婚葬祭など不在となるときに代診医の確保
3. 後方病院との密接な連携
4. 学会参加についての理解(旅費の補助・出張扱い等)
5. 専門診療科の非常勤医師による定期的診療支援(例：整形外科医師による月2回の外来診療など)
6. 診療上、困ったことが起こったときに専門医にコンサルトできるシステム(電子メールや電話等)
7. 休日・時間外の住民からの受診相談に対応する広域的なシステム(診療所医師が対応する必要がない)
8. 休日・時間外の患者に対応する搬送を含めた連携システム(診療所医師が1人で対応する必要がない)
9. 専門医取得のための研修が受けられること
10. 学位取得のための研究が続けられること
11. 赴任時に赴任期間が決まっていること(後任が見つかるまで勤務を継続する必要がない)
12. 自分の専門領域の診療機器が整備されていること
13. 赴任した診療所の運営(スタッフの任免・予算の執行・業者の選定等)について関与できること
14. 研究を行なう際の費用の補助
15. その他 具体的にお書きください()

3つまでお答えください。() () ()

そのうちもっとも重要と思われるものをお書きください。()